

	学校自己評価総括	改善策	学校関係者評価総括	改善策	総括評価
福生第五小学校	<p>(1) 学力向上のために</p> <p>① 分かりやすい授業のために、「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」や「一人一台タブレットの活用」に取り組んだ。</p> <p>② 一人一台タブレット型パソコン活用が進み、多様な取り組みが行われた。</p> <p>(2) 豊かな心の育成</p> <p>① いじめについて、校長講話等で複数回取り上げるとともに、「いじめ防止サミット」等を活用していじめの未然防止に取り組んだ。</p> <p>② 全ての学年・学級において人権擁護委員を講師として招き道徳科の授業を行った。</p> <p>③ 特別活動で学級会等を重視してコミュニケーションの能力の育成を図り、学級経営に生かした。</p> <p>(3) 健康でねばり強い子の育成</p> <p>① 生活リズムや生活習慣、について、保護者との連携を図った。</p> <p>② アルティメット教室等、体力向上の取組を進めた。</p>	<p>(1) 学力向上のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究やOJTの内容等の充実や指導法やOFFJTを積極的に受講させることにより、各教員の資質・能力の向上を図る。 ・管理による授業観察を行い、指導・助言をすることで更に授業改善を図る。 <p>(2) 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の学級会等を意図的、計画的に行い、自治的な行動をとれる児童を増やしていく。 ・全ての教員が発達支持的生徒指導を理解し、褒める、認めるなど肯定的な言葉掛けや指導により、自己肯定感の向上を図る。 ・指示的風土の有る学級づくりを推奨するとともに、自尊感情、自己肯定感を育む肯定的な言葉声掛けを充実させる。 <p>(3) 健康でねばり強い子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図的に児童の実態より少し高いめあてを示し、児童の粘り強さを育てていく。 ・個々の児童を理解すること、発達段階をよく理解することに努める。 ・運動を楽しむ仕掛けを工夫し、体力の向上を図る。 	<p>(1) 学校評価保護者アンケートの回収が 53.7%と低い結果であった。</p> <p>(2) 次のような評価があった。(令和4年度比)</p> <p>① 好ましい友達関係【A評価 35%－17ポイント】</p> <p>② 健康で安全な生活【A評価 40%－17ポイント】</p> <p>③ 生命を大切にす心や、社会のルールを守る態度【A評価 34%－16ポイント】</p> <p>③ 授業や行事を参観する機会【A評価 70%＋16ポイント】</p> <p>(3) コミュニティ・スクール(以下「CS」という)に関するアンケートの結果では、全ての項目で肯定的評価が上がった(令和4年度比)。</p> <p>① 自然観察会等について、家庭で話している。【肯定的評価 93%＋4ポイント】</p> <p>コミュニティ・スクール委員</p> <p>② 「水・防災訓練」について。【肯定的評価 93%で＋1ポイント】</p> <p>③ 学校だよりでGCSの取組を紹介することで知ることができる。【肯定的評価 88%＋13ポイント】</p>	<p>(1) 回収率 80%以上を目標に、回答しやすい工夫を行う。</p> <p>(2) 保護者アンケートの結果</p> <p>① 学級活動等の充実を図る。</p> <p>② 安全・安心で一人一人を大切にす学校づくりを全教員で行う。</p> <p>③ タブレット型パソコン等のICT機器を効果的に活用する。ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を推進する。</p> <p>(3) CSに関するアンケート</p> <p>① 各学年の授業において、GCSを要に地域人材と協働し授業を充実させる。</p> <p>② 安全教育を推進し、GCS、保護者と協働の基授業を行う。</p>	<p>(1) 「確かな学力」の定着は本校の最重要課題である。校内研究の充実を図るとともに、OFFJTなどに積極的に参加し、資質・能力の育成を組織的に行う。</p> <p>(2) 「主体的な学び」を引き出すために、ユニバーサルデザインの授業づくりを重視する。</p> <p>(3) 全教員が発達支持的生徒指導を理解し、生徒指導力を身に付け、児童へ対応する。</p> <p>(4) 特別支援教育の知識及び児童理解の力を全教員が身に付け、学級経営と個別の支援のバランスがとれるようにする。</p> <p>(5) 各種委員会等により児童の情報を確実に共有し、ブレのない一貫した指導をする。</p> <p>(6) CSを生かした地域連携により、体験的、探究的、課題解決的な活動を充実し、課題解決の取組を充実させる。</p>